

筑波地域包括支援センター

ニュースレター発行日

H30. 1.15

第 2 号

かわら版

毎日寒い日が続きます、乾燥と寒さが続くとインフルエンザが流行してきますが体調はいかがでしょう？昨年11月にはインフルエンザワクチン不足で接種できなかった方も大勢いらしたのではないかと思います。インフルエンザは3月まで流行することもありますので、接種してない方はぜひ、医療機関へご相談ください。

高齢者のやけどにご注意下さい。

高齢者は若年者に比べて皮膚が薄く、また、運動機能や感覚機能が低下するため重いやけどを負うリスクが高まります。事故が多発する冬に向けて、特に高齢者に多い事故を防ぐための注意点をお知らせします。

1) 低温やけど

高齢者が低温やけどを負ったという事故は毎年起きており、その中でも入院治療を要するものもあります。

。原因製品は、カイロが最も多く、次いで、湯たんぽ、ストーブ類、電気毛布、あんかの順で多く発生しています。低温やけどは、暖かく感じる程度の温度でも、長時間皮膚が接することでそれほど熱いと感じないままやけどになってしまうものです。低温やけどは普通のやけどに比べて痛みが少なく、水ぶくれなどもできにくく、乾燥していることが多いため、一見軽そうに見えますが、長時間熱の作用が及んだために、深いやけどになっていることも珍しくありません。高齢者は若年者に比べて感覚が鈍く、熱源に接する時間が長くなり、重症化しやすいと考えられます。



<事故を防ぐための注意点と対処法>

●低温やけどを防ぐためには、長時間同じ場所を温めないことが重要です。44℃では3～4時間、46℃では30分～1時間、50℃では2～3分で皮膚が損傷を受

けると言われています ●暖房器具や湯たんぽ、カイロ等を使用する場合は、製品の使用上の注意をよく読みましょう。特に就寝時には、布団が暖まったら湯たんぽやあんかは布団から出す、寝るときはカイロは使用しない、電気毛布等は高温で使用しないなどの注意が必要です。 ●低温やけどは水で冷やしても効果はありません。見た目より重症の場合がありますので、痛みや違和感がある場合は医療機関を受診しましょう。

2) ストープの上に置いたやかん等の熱湯を浴びる事故

加湿等の目的でストーブの上に置いていたやかんや鍋を倒して熱湯を浴びたという事故が起きています、そのうち入院治療を要したものもありました。



<事故を防ぐための注意点と対処法> ●ストーブの上にやかんや鍋を置くのは避けましょう。 ●転倒を防ぐため、床に不要な物を置かないようにしましょう。 ●熱湯を浴びてしまったときは、すぐに水で十分に冷やしましょう。着衣の上から熱湯を浴びた場合は無理に脱ごうとせず、衣服を着たまま冷やしましょう。

3). 着衣着火

着衣着火とは、何らかの火源により人の意思に反して身に着けている衣服に着火した火災のことです。高齢者が着衣着火によりやけどを負ったという情報が寄せられています。うち7割は入院治療を要しており、死亡事例もあります。着火源としては仏壇のろうそくの火、ガスコンロの順で多く見られました。



<事故を防ぐための注意点と対処法> ●火気の手扱いは十分に注意し、火を扱う時は近づき過ぎないでください。 ●毛足の長い生地や飾りの多い衣類、ゆったりした垂れ下がるようなデザインなど 火の付きやすい衣類は、火を使う時は身に着けないようにしましょう。難燃性能 や防炎性能のある衣類の使用も検討すると良いでしょう。 ●仏壇でのろうそくの事故を防ぐためには、LED を使った仏壇用のろうそくや線香 の使用も検討すると良いでしょう。 ●着衣着火が起きた時は、水をかぶって火を消してください。水が無ければ床や地 面に火を押し付けて消してください。決して走り回ってはいけません。